

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 7 月 30 日 (2020.7.30)

【公開番号】特開 2019-140264 (P2019-140264A)

【公開日】令和 1 年 8 月 22 日 (2019.8.22)

【年通号数】公開・登録公報 2019-034

【出願番号】特願 2018-22823 (P2018-22823)

【国際特許分類】

H 0 1 F 27/36 (2006.01)

H 0 1 F 27/02 (2006.01)

H 0 1 F 27/06 (2006.01)

H 0 1 F 27/29 (2006.01)

【F I】

H 0 1 F 27/36 1 0 1

H 0 1 F 27/02 D

H 0 1 F 27/06 1 0 3

H 0 1 F 27/02 N

H 0 1 F 27/29 J

H 0 1 F 27/36 1 5 0

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 6 月 17 日 (2020.6.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本明細書に記載されたインダクタは、磁性体コアと、前記磁性体コアを貫通する導電路と、前記磁性体コアを保持するコア保持部と基板に載置された際に前記コア保持部に対して前記基板側に電子部品を収容可能な高さで支持する支持部とを有する台座部と、前記磁性体コアに対して前記基板側に設けられ、前記導電路の通電により生じる磁界を遮蔽するシールド部と、を備える。

本構成によれば、インダクタの支持部が基板に載置された際に、コア保持部と基板との間に電子部品を収容することが可能になるため、基板上における電子部品を収容可能なスペースが多くなって電子部品の実装密度を高めることができ、小型化が可能になる。ここで、このように基板にインダクタを載置した場合には、インダクタの導電路と基板上の電子部品との間の距離が近くなるため、導電路から電子部品への磁界の影響が懸念される。本構成によれば、導電路の通電により電子部品側に生じる磁界がシールド部により遮蔽されるため、導電路の通電で生じる磁界による電子部品への影響を抑制することができる。よって、小型化を可能としつつ、インダクタ内の導電路の通電で生じる磁界による基板に実装される電子部品への影響を抑制することが可能となる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

次に、図 9 に示すように、コア保持部 4 1 の上方側から一方の分割部材 3 2 A を上側の

一対の凹部 4 4 に嵌め込み、他方の分割部材 3 2 B を台座部 4 0 の下側から受け部 4 7 の傾斜面 4 7 A の上にスライドさせつつ、下側の一対の凹部 4 4 に嵌め込むことで磁性体コア 3 1 が形成される（図 1 0 ）。次に、磁性体コア 3 1 の上にカバー部 5 0 を被せ（図 4 参照）、カバー部 5 0 の被係止部 5 3 をコア保持部 4 1 の係止部 4 8 に係止させる。